

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	21-048	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
The co-occurrence of smoking and alcohol use disorder in a hospital-based population: Applying a multimorbidity framework using geographic information system methods. 病院患者集団における喫煙とアルコール使用障害の併存状況. GIS を用いた併存罹患フレームワークの適用		
<b>執筆者</b>		
Siegel SD, Brooks M, Ragozine-Bush HE, Schnoll RA, Curriero FC.		
<b>掲載誌</b>		
Addict Behav. 2021 Jul;118:106883. doi: 10.1016/j.addbeh.2021.106883.		
<b>キーワード</b>	<b>PMID</b>	
アルコール使用障害, 環境構築, 多疾患, 喫煙, タバコ使用障害	33714034	
<b>要 旨</b>		
<p><b>背景:</b>            喫煙と飲酒は、米国における早期死亡の上位の原因であり、これらの同時使用はさらにリスクを高める。本研究では、社会経済的特徴、医学的な情報に加え、GIS を用いタバコ、アルコール販売店の近くに住んでいるかなどの曝露も評価した。</p> <p><b>方法:</b>            本研究は、New castle における Christiana Care Health System の EHR データ を用いた。2018年7月1日から2019年6月30日までに登録された20,310名の患者を対象に、喫煙、アルコール使用障害 (AUD) の病名で登録されたものを分類した横断研究である。</p> <p><b>結果:</b>            全入院のうち、1464名(7.2%)はAUDで現在喫煙者であった。非喫煙者でAUDでないものと比較し、AUDで現在喫煙者のものは、年齢が若く(52.4歳 vs.63.9歳)、男性が多く(64.1% vs.38.0%)、Medicaid 利用者が多く(46.9% vs.11.6%)、住居近隣のタバコ販売店数(10.3 vs.4.72)、アルコール販売店数(2.24vs.1.14)が多かった。臨床面では、非喫煙者でAUDでないものと比較し、他の物質使用障害(60.4% vs.6.1%)、うつ病(64.6% vs.34.8%)、HIV/AIDS(3.3% vs.0.6%)、肝疾患(40.7% vs.13.2%)の有病率が高かった。</p> <p><b>結論:</b>            喫煙とAUDを併存する患者は、深刻な健康リスクに直面している。併存罹患の枠組みは、精神疾患や慢性疾患、複雑な社会的ニーズ、ハイリスクな環境曝露を同時に抱える個人に対する臨床的および地域ベースの介入の検討へと導くことができる。</p>		